

■■メールマガジン「静岡県防災」第39号■■

『狩野川台風と大規模放水路』

昭和33年（1958年）9月26日夜、伊豆半島東岸を北上して三浦半島に上陸した台風22号は、伊豆半島中部に750mmの豪雨を降らせ、狩野川を氾濫させて伊豆地方に大水害をもたらしました。

被害の大部分は伊豆半島に集中し、なかでも狩野川の洪水、伊東大川の氾濫により伊豆の温泉郷は大水害となりました。

【被害の概要（静岡県）】

死者736名、行方不明者193名、重傷者294名、軽傷者1,203名

家屋被害：全壊449戸、流出820戸、半壊792戸、床上浸水6,820戸、床下浸水7,680戸

【狩野川放水路】

狩野川はしばしば氾濫し、その治水は古くから地域の課題でした。

狩野川放水路の建設は昭和26年（1951年）に着工されていましたが、工事途中の狩野川台風により、上流部は未曾有の災害が発生してしまいました。

その後、当初2本のトンネルで計画されていた水路を、3本に変更するなど計画が見直され、昭和40年（1965年）に完成、伊豆の国市壩之上（ままのうえ）、狩野川資料館のすぐ横から狩野川を分流し、沼津市口野から江浦湾にそそぐ約3kmの人口放水路となっています。

分流地点のゲートを開放することにより、最大で毎分2,000立方メートルもの水を流すことができ、狩野川の洪水防止の要となっています。

【狩野川資料館】

狩野川台風は今も地域の人々に語り継がれています。

この歴史的な災害を後生に正確に伝えるため、平成10年9月に開館した狩野川資料館は、令和3年5月24日にリニューアルオープンしました。

館内では、狩野川台風や狩野川の歴史、防災に関するパネルの展示、ビデオの視聴、ARを使ったコンテンツ等を観ることが出来ます。

参考：狩野川資料館インターネットHP：

<https://www.cbr.ml.it.go.jp/numazu/river/shiryoukan/>